

# 宮崎県沿岸から得られた標本に基づく メジロザメ科魚類ハナザメの記録

中島田正希<sup>1</sup>・黒木健介<sup>2</sup>・緒方悠輝也<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 〒 810-0064 福岡市中央区地行

<sup>2</sup> 〒 880-0026 宮崎市花殿町 7-67 宮崎大学教育学部附属中学校

<sup>3</sup> 〒 889-0517 宮崎県延岡市赤水町 376-6 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター  
延岡フィールド (水産実験所)

## Abstract

Two specimens of *Carcharhinus brevipinna* (Carcharhinidae) (751–798 mm total length) were collected from the coast of Miyazaki Prefecture, eastern Kyushu, southern Japan. The present specimens represent the first reliable records of the species from the prefecture.

## はじめに

メジロザメ科魚類 Carcharhinidae は沿岸から外洋にかけて生息する魚類で、日本国内からは 8 属 22 種が知られる (青沼ほか, 2013; 中坊, 2018). ハナザメ *Carcharhinus brevipinna* (Valenciennes, 1839) は、メジロザメ科メジロザメ属に属し、主に水深 30 m 以浅の沿岸域に出現することで知られる (青沼ほか, 2013). 本種の日本国内での分布域は従来、相模湾から九州南岸にかけての太平洋沿岸、天草灘、琉球列島とされてきたが (例えば、阿部・落合, 1989; 青沼ほか, 2013), 宮崎県からの確かな記録が存在しないので、ここに報告する。

## 材料と方法

標本の計測は岸本ほか (2006) にしたがった。計測は巻尺あるいはノギスを用いて 1 mm 単位まで行い、計測値は小数第 2 位で四捨五入した全長に対する百分率で示した。内臓の名称は木村 (2010) に基づく。本報告に用いた標本は神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM-NI) に保管さ

れており、標本の鮮時の写真は同博物館の魚類写真資料 (KPM-NR) に登録されている。なお、標本番号は博物館のデータベース上では 0 を含めた 7 桁の数字で表記される (例えば、KPM-NI 0058736)。

## 結果と考察

*Carcharhinus brevipinna* (Valenciennes, 1839)

ハナザメ (Figs. 1–2)

標本 2 個体 (751–798 mm TL) : KPM-NI 58736, 雄, 全長 751 mm, 宮崎市大字内海沿岸 (北緯 31 度 45 分, 東経 131 度 29 分付近), 水深 30 m, 2020 年 3 月 15 日, 定置網, 第八青照丸漁獲; KPM-NI 58737, 雄, 全長 798 mm, 宮崎県日向市細島日向岬付近 (北緯 32 度 25 分 43 秒, 東経 131 度 41 分 36 秒), 水深 32 m, 2020 年 4 月 18 日, 定置網, 神代丸漁獲。

写真資料 KPM-NR 200811A–F, KPM-NI 58736 の生鮮写真; KPM-NR 200812A–F, KPM-NI 58737 の生鮮写真。

識別的特徴 本研究に用いた標本はいずれも、尾柄側面に隆起線がないこと、第 2 背鰭が小さいこと、眼の後縁に欠刻がないこと、第 1 背鰭後端が腹鰭起点より前方に位置すること、各鰭の先端が白くないこと、第 2 背鰭先端が黒くないこと、上顎前方の歯は鉤状でなく、幅が狭いこと、背中

Nakashimada, M., K. Kurogi and Y. Ogata. 2020. First records of *Carcharhinus brevipinna* (Carcharhinidae) from the coast of Miyazaki Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 1–4.

✉ YO: Nobeoka Marine Science Station, Faculty of Agriculture, University of Miyazaki, 376–6 Akamizu, Nobeoka, Miyazaki 889–0517, Japan (e-mail: yukiyalates@gmail.com).

Received: 26 May 2020; published online: 1 June 2020; [http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_047/047-001.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-001.pdf)

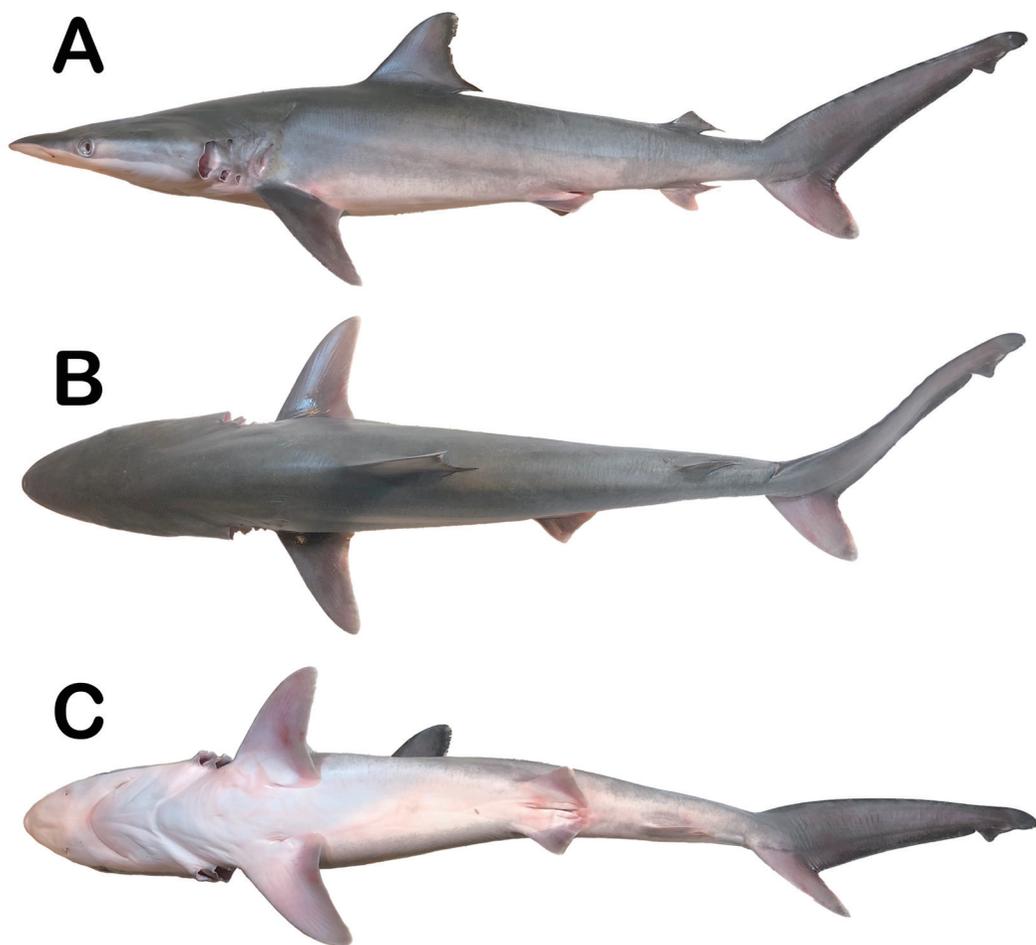


Fig. 1. Fresh specimen of *Carcharhinus brevipinna* collected from near coast of Uchiumi, Miyazaki Prefecture, southern Japan. KPM-NI 58736, male, 751 mm TL. A, lateral view (KPM-NR 200811A); B, dorsal view (KPM-NR 200811B); C, ventral view (KPM-NR 200811C). Photos by M. Nakashimada.

線に隆起がないこと、尾鰭後縁が濃い灰色であること、吻端が丸くなくとがること、第1背鰭起点が胸鰭後端のほぼ直上に位置すること、第1・第2背鰭間の距離が147–196 mmで、第1背鰭高(53–63 mm)の2.33–3.70倍であることが、青沼ほか(2013)の示したハナザメの標徴に一致したため、本種と同定された。

**記載** 体各部の全長に対する比率(%)は以下のとおり。尾鰭前長71.1–73.4；頭長24.3–25.2；躯幹部長25.2–26.6；尾部長19.8–22.6；総排泄孔前長49.6–63.6；体高10.5–12.1；尾柄高3.6–3.9；吻長8.3–8.9；口前吻長8.7–10.3；眼窩径1.7–1.8；第1鰓裂長3.4–3.7；両眼間隔8.8–9.5；鼻孔間隔

4.9–4.9；口幅7.1–7.5；第1背鰭長11.4–11.7；第1背鰭高6.6–8.4；第2背鰭長6.5–7.1；第2背鰭高1.9–1.9；胸鰭長13.7–13.8；腹鰭長6.1–6.6；臀鰭長7.2–7.9；臀鰭高2.6–3.3；尾鰭上葉長25.1–28.6；尾鰭下葉長10.7–11.3；交接器長4.4–4.5。

体は細長く、頭部の断面はやや縦扁し、体の断面は丸みを帯びる。吻は細く尖り、前端はわずかに丸みを帯びる。口は下位で腹面に開き、口裂の前端は眼前端の直下。口裂は弓状に湾曲する。上顎の唇褶は顕著で、後端は下唇褶の後端と癒合する。下唇褶は小さい。上顎歯は基部のみ幅広く、基部をのぞいた大部分が細い。縁辺に鋸歯がない。機能歯の歯列は2列程度。下顎歯も上顎と同形で、

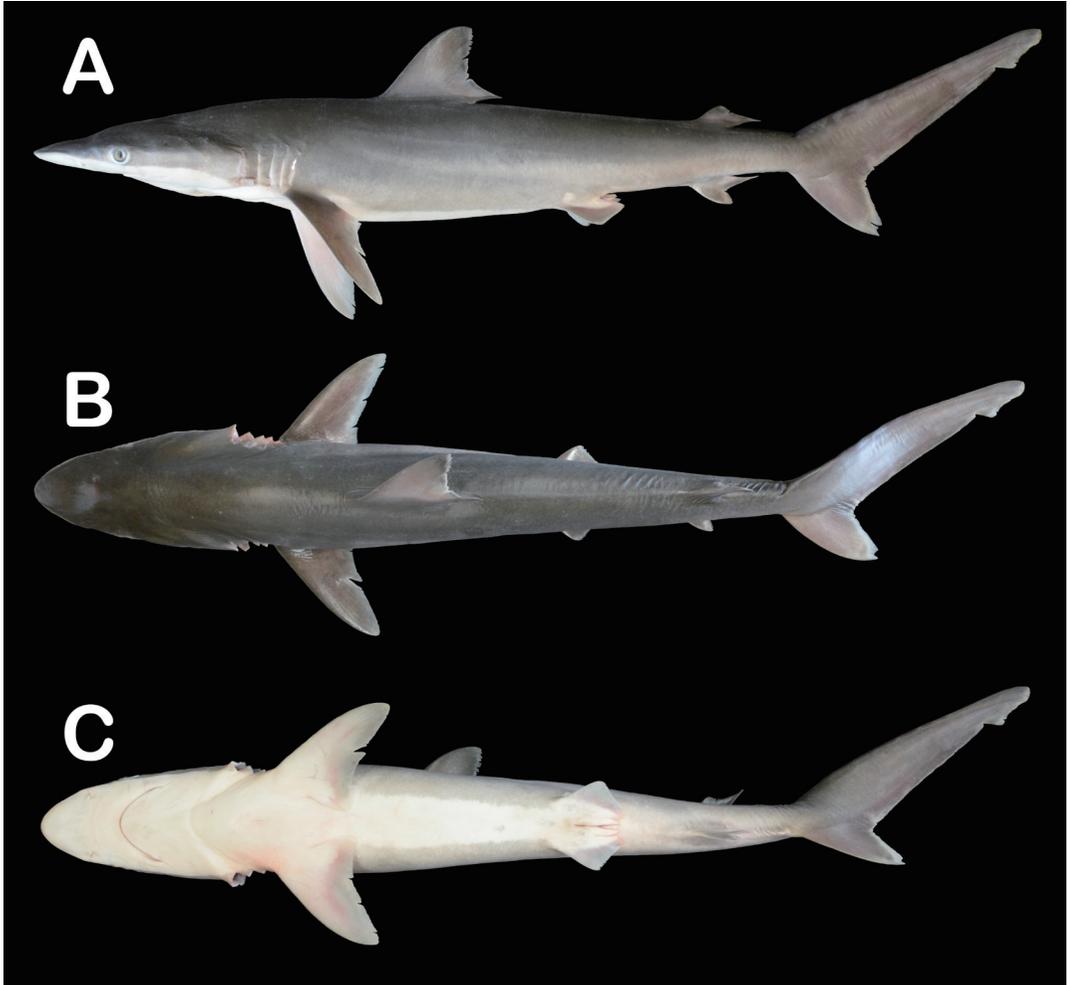


Fig. 2. Fresh specimen of *Carcharhinus brevipinna* collected from Cape Hyuga, Hososhima, Hyuga City, Miyazaki Prefecture, southern Japan. KPM-NI 58737, male, 798 mm TL. A, lateral view (KPM-NR 200812B); B, dorsal view (KPM-NR 200812D); C, ventral view (KPM-NR 200812F). Photos by Y. Ogata.

2列程度あり、鋸歯がない。舌は幅広く、前縁は丸い。口腔内も楯鱗に覆われる。吻部腹面、口裂付近、眼の後方に、顕著なロレンチニ瓶の帯がある。また、吻腹面前部の中央付近にあるロレンチニ瓶の開口は、他の部位にあるものよりかなり小さい。鼻孔は、吻腹面の、吻端から前方1/2付近に位置し、スリット状に開く。鼻孔の前端は吻の側縁に接近する。眼は円形で、頭部の中央よりわずかに前方に位置する。瞳孔は上下にわずかに長い楕円形。眼の前下縁に瞬膜をそなえる。鰓裂は5対で小さく、頭部の側面に位置する。眼の後方に噴水孔がない。体は、全体がやや微細な楯鱗に覆われる。ただし、瞬膜の最下部、胸鰭腋部、腹

鰭腋部および総排泄孔後方、尾鰭上下葉起点の直前は無鱗。側線は管状で体表に露出せず、鰓裂の上方から尾鰭上葉の後端付近まで走る。その周囲に小孔が散在する。第1背鰭起点は胸鰭後端のほぼ直上、第2背鰭起点は臀鰭起点と対し、尾部の中央付近、胸鰭起点は第4鰓裂の直下、腹鰭起点は総排泄孔直前に、それぞれ位置する。第1背鰭は三角形に近い。後端はいくらか伸長し、その先端は尖る。第2背鰭は低い三角形で、後端は長く伸長し、その先端は尖る。臀鰭は第2背鰭とほぼ同大で小さい。前部は鎌状になり、後端が伸長する。尾鰭は顕著に二叉し、上葉は下葉よりかなり長い。上葉の後縁に、小さな三角形の突出域お

よび欠刻がある。尾鰭上葉及び下葉起点の直前に、V字型をした強い窪みがある。上のものがより大きい。胸鰭は三角形に近い鎌状で、わずかに後方へ反る。両側の胸鰭基底は離れる。腹鰭は小さく、三角形。両腹鰭の基底はクラスパーを挟んで隣接する。

**色彩** 色彩は得られた標本2個体の生鮮写真(Figs. 1-2)に基づく。頭部と体の背面は、全体がわずかに緑がかかった灰色。眼の後方から鰓裂までの頭部側面は淡い灰色。体の側面は広く淡い灰色。頭部と体の腹面は全体が白色。第1, 第2背鰭は体背面と同じような、やや濃い灰色。臀鰭は淡い灰色。尾鰭は全体がやや濃い灰色で、上葉はごくわずかに紫がかり、下葉は淡い。尾鰭上葉後縁は非常に濃い灰色。胸鰭および腹鰭の背面は体背面とほぼ同色、腹面は基底部を除く大部分が淡い灰色、基底部は白。

**分布** 日本国内での分布は従来、相模湾から九州南岸の太平洋沿岸、天草灘、および琉球列島(青沼ほか, 2013)とされてきた。太平洋沿岸における個々の分布記録は、和歌山県(池田・中坊, 2015)、高知県以布利(後藤, 2001)、および鹿児島県(岩坪・本村, 2017; 藤原ほか, 2018; 公益財団法人鹿児島水族館公社, 2018)が知られている。本研究により、宮崎県沿岸からの分布も確認された。国外では台湾、中国福建省、東部太平洋を除く全世界の熱帯から温帯域から記録されている(青沼ほか, 2013)。

**備考** 「分布」の項に挙げたように、これまで本種の日本列島本土太平洋沿岸の分布域は相模湾以南から九州南岸とされていたが、日向灘の魚類相をまとめた Iwatsuki et al. (2017) や、宮崎県北部門川町周辺の浅海魚類相をまとめた村瀬ほか(2019)では記録されていないことから、本報告が本種の宮崎県沿岸からの標本に基づく分布の初記録である。

宮崎市近海で漁獲された個体(KPM-NI 58736)は解剖を行い、腹腔内を観察したので以下に記す。肝臓は長大で、腹腔の前端付近から後端付近まで位置する。胃の幽門部に細長い脾臓が隣接する。腸の前端付近に、1葉の脾臓がある。腸の螺旋弁

は、腸の長軸方向に対して垂直にならず、腸を切開すると1枚の幅広い膜となる。

## 謝辞

宮崎市漁業協同組合内海支所の第八青照丸の乗組員の皆様とマルケイ水産の皆様には標本の提供において多くの御協力を賜りました。また、宮崎大学大学院農学研究科の眞田樹也氏には標本写真の撮影で、宮崎大学農学部海洋生物環境学科の村瀬敦宣准教授と神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士には、標本と写真の登録で御協力を賜りました。これらの方々に対して、この場をお借りして感謝申し上げます。

## 引用文献

- 阿部宗明・落合 明. 1989. 原色魚類検索図鑑 III. 北隆館, 東京都. 315 pp.
- 青沼佳方・山口敦子・柳下直己・吉野哲夫. 2013. メジロザメ科, pp. 171-176, 1761-1762. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 藤原恭司・伊藤正英・Kunto Wibowo・本村浩之. 2018. 鹿児島県から採集された準絶滅危惧種ハナザメのアルビノ. *Nature of Kagoshima*, 44: 151-154.
- 後藤友明. 2001. メジロザメ科, pp. 137-138. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編), 以布利 黒潮の魚 ジンベエザメからマンボウまで. 海遊館, 大阪.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之(編). 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp.
- Iwatsuki, Y, H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27-55.
- 木村清志(監). 2010. 新魚類解剖図鑑. 緑書房, 東京. 216 pp.
- 岸本浩和・鈴木伸洋・赤川 泉. 2006. 魚類学実験テキスト. 東海大学出版会, 秦野. 130 pp.
- 公益財団法人鹿児島水族館公社(編). 2018. ~かごしま水族館が確認した~ 鹿児島県の定置網の魚たち 増訂版. 公益財団法人鹿児島水族館公社, 鹿児島. 335 pp.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 207 pp.
- 中坊徹次. 2018. メジロザメ科. Pp. 30-31. 中坊徹次(編), 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.